



繪本
太閤記
卷の九

西垣文庫
文庫10
6745
4



文庫10
6745
4

西垣文庫

佐々木六角左京大夫義賢入道兼禎

宇多天皇の皇子敦真親王初て
源の姓を賜り是を宇多源氏と稱す
四代の孫兵庫頭成頼江州佐々木
の庄に住す其孫式部大輔季定
其男源三秀義嫡男太郎定綱
是江州六角の祖三次男信綱
其子泰綱八代の孫近江守
氏信早世し其子義實幼
少父定頼の国政を任せ義實
成長し太守と成り定頼の箕作也
隱居を義實卒去す其子秀幼少
より依りて定頼の男義賢後見す



享祿三年

山口左馬介

又山下知を信守殿者

上月夫山の百姓一掃を令せ

給物す是の大山の塔主

織田千右衛門信清

の佐秀の令を奉

与二帝伝康の

姉子にて位

名六渡舟之

京門との

必武勇小



大山隆助を

去人更

信守殿

千坂織田信

清実山

甲斐守

一信

一信

一信

一信

一信

一信

一信

一信

一信

一信

猪村乃以家乃小
小の衆とのいふ百姓の
材と食う故小一月越流す
求てかま代

戸部新十郎

三人あり皆要人なり内一人
病家也涉理跡まといふ者
代とつとむ跡まへは昇りて
か物にて正直勇毅の人なり
あるは右も代に文小く村内
名かしはる百姓不礼も
りあり敷る百姓と我ひを
け之一方を討破て清洲の義兵
小かま代乃右一傳信也了と口



此の傳信の事木下と信守殿
討小と信守殿の事

信守殿

信守殿

信守殿

信守殿

信守殿

信守殿

信守殿

信守殿

信守殿

信守殿

信守殿

信守殿

信守殿

信守殿

信守殿

信守殿

信守殿

つた今川義元上洛の重臣世が
織田家の法士大内義隆の時小
伝長防戦の陣定ぬれ左伝と
てしめ敵の大軍おれ和成と
進出ぬ位おれ小多良良義隆
故が不始ぬふと多良良
木下義隆 山口九良次郎
多良良義隆は
和成のまゆみ
中流の志月木
義隆お白ひ
尚更お小勢
ありとすむね



木下義隆
由実田佐久
木下
木下七
除んと
以て
余氏
防戦と
空り
初義隆
流那
七高人小

義隆
軍
と速方と高
と木下
流と
義隆防非的白ひ
後と
不具の辨
眼赤
義隆の
と目一



有
勢
助
男
流
義
明
押
彼

山口通藩

小島今川家の

徳一

加勢

徳王頼朝

事も最善

是を以て子の

名を以てす

柴田勝家

一子に成す

加勢一織田信長

と

山口



佐久間信盛

今川方格

病を患ひ

木下藤吉郎

木下藤吉郎退治する山口

一戦奮つた小島を以て徳一

成中不折きまゝに管取

成中不折

今川の法天口

佐々成政

徳一 加勢 柴田 勝家 徳王 頼朝 事 最 善 是 を 以 て 子 の 名 を 以 て す 柴 田 勝 家 一 子 に 成 す 加 勢 一 織 田 信 長 と 山 口



山口

成中不折

今川方格

病を患ひ

木下藤吉郎

木下藤吉郎退治する山口

と

山口

徳一

加勢

徳王頼朝

事も最善

是を以て子の

名を以てす

柴田勝家

一子に成す

加勢一織田信長

と

山口



佐久間信盛

今川方格

病を患ひ

木下藤吉郎

木下藤吉郎退治する山口

一戦奮つた小島を以て徳一

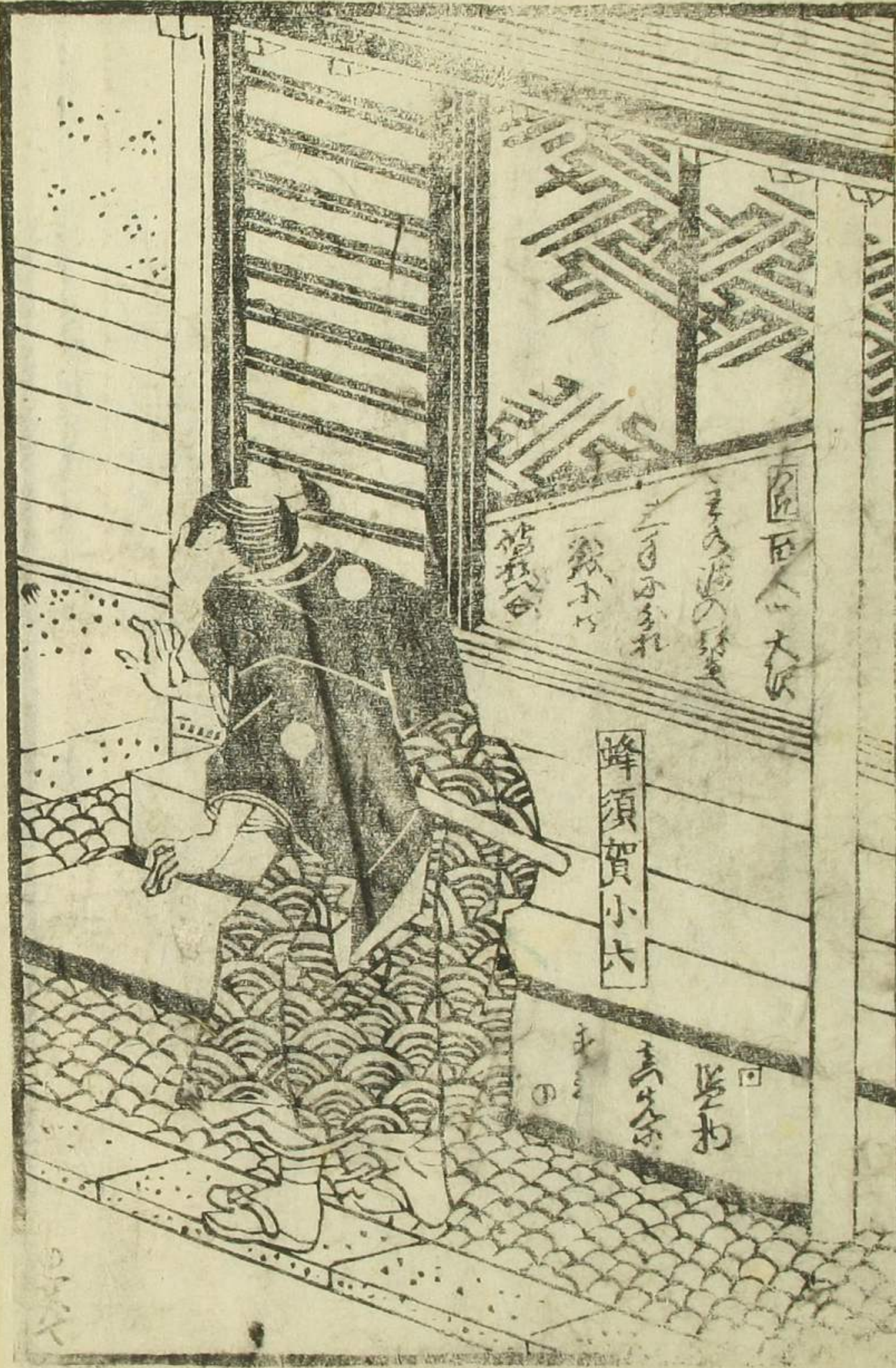
成中不折きまゝに管取

成中不折

今川の法天口

佐々成政

徳一 加勢 柴田 勝家 徳王 頼朝 事 最 善 是 を 以 て 子 の 名 を 以 て す 柴 田 勝 家 一 子 に 成 す 加 勢 一 織 田 信 長 と 山 口



百八十八

三日月

三日月

三日月

蜂須賀小六

三日月

三日月



木下藤吉郎

木下藤吉郎

木下藤吉郎

木下藤吉郎

木下藤吉郎

木下藤吉郎

木下藤吉郎

三日月

三日月

三日月

三日月

三日月

三日月

三日月

三日月

三日月

三日月

三日月

三日月

大田信長

天下無双の偉業を成し給へり

尾張の御方御代に御座り

大田信長公の御代に

臣信長公の御代に

三月今川

義元公の御代に

大田信長公の御代に

今川氏に御代に

駿河の御代に

軍勢の御代に

大田信長公の御代に

美濃の御代に



口付十丈

二百余と升五

築田橋高坂井太直

名古香原大御下丹上

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

引陣三月十日... 大田信長公の御代に



大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に

大田信長公の御代に



信長城外一玉

白木を動かす人

多岐の地を治る

多岐の地を治る

三里の地を治る

龍附の木下辰吉の陣

勝りの初年寅申南の山勢

北村ととて長谷社にたて



織田信長

さかひの法をいんてきまじふ木下

法幣と社の内へ入れ物させ林吉郎

木下辰吉郎

白鳩二羽の交りては長谷社にたて

昭神のうご

志願する人

物ハ勝利を

得る

なり

早稲田大学図書館

011688985791